

町村合併はこうして進められた

歴史に残る

「昭和の大合併」

昭和二十二年地方自治法の制定によって、地方自治体の自治が強められることになりましたが、激増する町村負担に苦しむ自治体も、また多くありました。そのため、全国の約九千六百の町村を合併し、人口八千人以下の町村をなくし、町村数で約三分の一に減らそうという町村合併促進法が、三年間の期限を付けて、昭和二十八年施行されました。全国規模で計画的に行われたこの合併は「昭和の大合併」とい

われ、歴史に大きく刻まれています。新潟県も、町村合併促進審議会を設け、そこで各町村の合併計画をまとめ

その結果、昭和三十一年には、それまで三百七十七あった町村が、百五十町村にまでまとめられました。

しかし、町村合併は、直接住民の利害にかかわるものであり、学校、役場の場所、財政状態などから容易に進められるものではありませんでした。合併後、分村分町していく地域もあり、また、合併計画を立てていても不調に終わった町村もありました。

西部郷七町村のうち 三村が新潟市へ合併

北蒲原郡西部郷の松ヶ崎浜村・濁川村・南浜村・木崎村・葛塚町・岡方村・長浦村の一町六村は長年交流が深く、この町村合併についても一緒に検討していきたいという考えをもっていました。

しかし、最初に松ヶ崎浜村が新潟市へ合併してしまいました。松ヶ崎浜村は、阿賀野川を挟んで構成されている村で、地理的にいえば新潟市と関係が深く、また、飛行場敷地も松ヶ崎浜村内にあり、新潟市との合併へ進んでいく要因は最初からあったといえます。新潟市にとっても大商工業都市として発展していく考えから、合併は欠かせなかったものです。

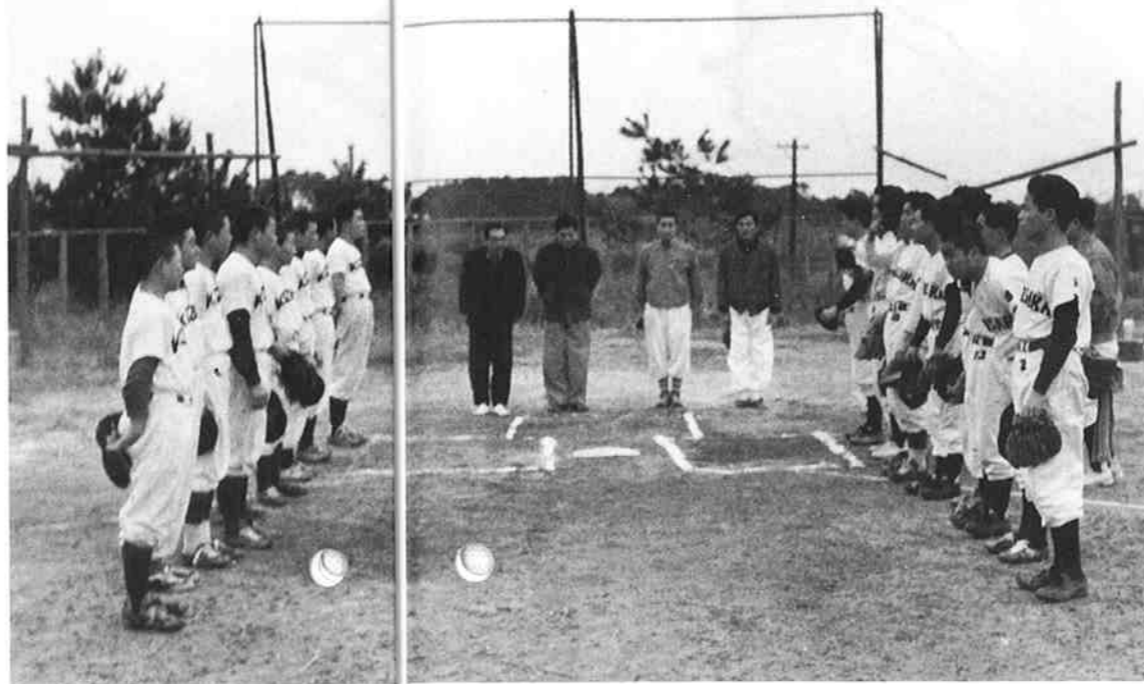
そのため、松ヶ崎浜村議会では昭和二十五年ころから新潟市の合併が論議され、昭和二十七年十一月二十四日には村長と議会議長が新潟市長と同議会



当時の濁川村村長
古山喜平さん
(新潟市・八十六歳)

新潟市合併は当然

泰平橋、白新線を利用し、新潟市との関係が深く、合併は当然の結果でしょう。西部郷の皆さんとは、時々会議で一緒になりましたが、岡方の大野村長とは個人的なつきあいもありました。



合併前の北蒲原郡西部郷球技大会

六町村全部の合併について説いたとされています。

しかし、南浜村はもとも松ヶ崎浜村、濁川村の三村合併を模索したこともあり、新潟市との経済的なつながりを重要視していたことから、新潟市合併へと傾いていきました。濁川村も同様に新潟市とのつながりで発展を遂げたいという方針を固め、両村議会とも満場一致で昭和二十九年十一月一日の新潟市合併を決めました。

木崎村の態度が 注目される

北蒲原郡西部郷七町村のうち、残った四町村の中では合併に消極的であり、どちらかといえば新潟市に目が向いていた木崎村の態度が、ここへ来て注目されることとなります。当時の葛塚町議会の議事録に、「木崎村が合併に応じなければ、長浦村、岡方村と三町村の合併を行うことになる」という議長の見解が残っています。また、当時の葛塚町合併委員の山田長司さん(城山・七十七歳)は「木崎村全体の雰囲気

合併・分町の歩み

◎ 三町村―葛塚町・岡方村・木崎村
◎ 四町村―葛塚町・岡方村・木崎村・長浦町

昭和
28年

10・1 町村合併促進法
(31・9・30までの時限立法)

29年

2・4 町村長、議会議長合同会議で合併問題を協議(濁川村・木崎村・葛塚町・南浜村・岡方村・長浦村)
6 県の町村合併促進審議会が町村合併基本方針を決定
16 葛塚町議会全員協議会で六町村による合併を確認
4・5 松ヶ崎浜村が新潟市へ合併
10・11 県の町村合併計画発表
11・1 南浜村・濁川村が新潟市へ合併
9 四町村議員による町村合併促進研究会で、新潟市議会議長が「今後合併勧誘はしない」と発言
27 葛塚町議会が四町村合併促進協議会設置可決

30年

1・14 木崎村議会が四町村合併促進協議会設置可決
25 岡方村議会が四町村合併促進協議会設置可決

2・4 長浦村臨時議会に、三町村長・同議長が出席し合併への協力要請
4・5 四町村合併促進協議会設置可決
(賛成十二、反対七)

11 三町村議会が合併議決
12 合併促進協議会会長 八田健吉・長浦村欠席
12 長浦村臨時議会が合併案否決
14 三町村同時に議会招集し仮町名を「白新町」に決定、合併町村から長浦村除外決定

17 合併促進協議会
新町名選定委員を選任
木崎村 島山 佑二
葛塚町 松野又五郎
岡方村 後藤 賢吉

17 三町村による合併調印
第一回新町名選定委員会
21 第二回新町名選定委員会が新町名「豊栄町」を選定
21 三町村同時に議会招集し、町名を「豊栄町」に決定
26 新町建設申請書を県に提出
(三町村合併)

3・4 長浦村臨時議会が合併可決
(賛十二、反四、白三)
6 四町村で合併促進協議会
6 合併協定書に調印(四町村)
6 四町村合併のための変更議決を四町村で行う

10 新町建設申請書を四町村合併に変更し県に提出
18 新町建設申請書を再び三町村合併に変更し、県に提出

葛塚町が木崎村を説得



当時の木崎村合併委員
中川三郎さん
(早通・79歳)

木崎村の寺尾村長は、現状維持か南浜村との合併を考えていたようです。しかし、表面だった動きはありませんでした。四町村との合併へ動いたのは、葛塚町の説得があったようです。

議長あてに合併請願書を提出しました。そして、昭和二十八年十二月に新潟市松ヶ崎浜村それぞれの議会で合併案が可決されます。

松ヶ崎浜村の新潟市合併は、他の六町村に大きな刺激を与えました。昭和二十九年二月、六町村長と議長が合同会議を行い、六町村全部の合併か、濁川村・南浜村・木崎村と、葛塚町・岡方村・長浦村の分割合併かを論議しました。その時、葛塚町の八田町長は、